
情 報

第48回：平成19年11月22日

**Complete Denture における
咬合理論と技工術式**新潟大学医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻
顎顔面再建学講座

渡邊 清志

無歯顎者にとって良質なcomplete dentureとは、第一に義歯の維持・安定に優れ、摂食・咀嚼・嚥下機能および発語機能の回復が確実であり、審美的にも十分に満足できるものであると考える。そのためには、特に片側性咬合平衡と両側性咬合平衡の向上が重要な要素であると考えている。そこで、その理論に対応する技工術式として、第一に片側性咬合平衡の向上には咬合採得後の咬合床 (balancing zone) の舌面に下顎臼歯部人工歯舌側面を一致させることを、両側性咬合平衡の

向上にはfull balanced occlusionと両側性咬合平衡型lingualized occlusionに前後的・側方調節彎曲の改良値(KW式)¹⁾を活用することを報告した。また、義歯の維持・安定および機能回復には必須条件である印象採得の精度と、両側性咬合平衡型lingualized occlusionの選択基準についても言及した。

- 1) 渡邊清志, 飛田 滋, 岡田直人: コンプリートデンチャーにおける両側性咬合平衡を高めるための必要条件と技工の実際, 日本歯科技工学会雑誌, 27 (1), 28~33, 2006